

資 料

0歳児・1歳児に発生した事故の質問紙調査結果

—原因は保護者の危険認識の不足と乳幼児の予期せぬ行動—

加藤 康代¹⁾, 大矢 紀昭²⁾, 中辻 浩美¹⁾
高峯 智恵³⁾, 長村 敏生⁴⁾, 澤田 淳⁵⁾

I. はじめに

われわれの施設は京都市子ども保健医療相談・事故防止センターという長い正式施設名を持っており、「子どもの事故を少しでも減らしたい」という切なる目標を掲げて、10年前に京都市によって創設された。通称“京（みやこ）あんしんこども館”として京都の人々のみならず育児や育児支援関係者すべてに広く開放され、一人でも多く利用してほしいと願っている。

昨年9月に創立10周年を迎えたが、今もって当館利用者はまだ限局しており、育児に専念している父母の間ですら広く知れ渡っているとはわれわれ自身も自信を持って公言できない。そこで、育児に携わっている専門職の人には知って欲しいと、“当館の10年のあゆみ”をまとめて報告した¹⁾。

われわれは乳幼児の不慮の事故に対する予防策を考えるうえで、対象となる乳幼児の事故の実態を知ることが必須であると考え、平成19年4月から2年間に京都市で出生した児の保護者全員（23,712人）を対象に、0歳時と1歳時における事故の質問紙調査を実施した。この調査結果の分析より、乳幼児の事故原因には、

児の行動発達に伴う多くの共通因子がみられたが、同時に児の行動発達段階からは予想しえない事故もみられた。

今回は、事故予防策の参考資料として利用してもらうため、質問紙調査の実例をわかる範囲で詳細に記載した。

II. 調査方法²⁾

1. 対象者

平成19年4月～平成20年3月までの2年間に京都市で生まれた23,712人全員の保護者とした。

2. 配布回収方法

京都市から郵送される出産お祝いレターに事故調査はがき0歳児期用、1歳児期用2枚を同封、発生した事故全てを記載し、事故がなかった人も含めて投函してもらう。

3. 質問項目

性別、生年月日、事故発生月日、発生時間、屋内か屋外か、事故内容、結果である。

Report Derived from the Investigation Papers about the Accidental Injuries of Infants, Which Happened at 0 Year Old and 1 Years Old Children — Those Were Caused by Their Parents' Little Understanding of the Riskiness and Infants' Movements beyond Their Expectations — (2735)
Yasuyo KATO, Noriaki OYA, Hiromi NAKATSUJI, Chie TAKAMINE, Toshio OSAMURA, Tadashi SAWADA 受付 15. 5. 14
採用 15. 8. 7

- 1) 京都市子ども保健医療相談・事故防止センター（京あんしんこども館）（看護師）
 - 2) 京都市子ども保健医療相談・事故防止センター（京あんしんこども館）（小児科医師）
 - 3) 京都市子ども保健医療相談・事故防止センター（京あんしんこども館）（保健師）
 - 4) 京都第二赤十字病院小児科（部長）
 - 5) 京都市子ども保健医療相談・事故防止センター（京あんしんこども館）（小児科医師／センター長）
- 別刷請求先：加藤康代 京都市子ども保健医療相談・事故防止センター（京あんしんこども館）
〒604-0091 京都府京都市中京区釜座通丸太町上る梅屋町174の3
Tel：075-231-8002 Fax：075-231-8003

4. 回収期間

0歳児期対象用はがき平成20年4月～平成22年11月末日, 1歳児期対象用はがき平成21年4月～平成23年10月末日。

5. 回収数(回収率)・事故有無の件数

1) 0歳児期対象用はがき

平成22年3月末時点での回収数616枚(回収率2.6%)と非常に低率であったため, 聞き取り調査による回収を実施した。聞き取り調査の実施は, 平成22年3月から7か月間, 京都市内14ヶ所の保健センターを任意に選び, 当センター職員(調査目的, 方法を熟知した保健師, 看護師, 事務員)が保健センターでの1歳半健診に出向き, はがきを返送していない対象者に0歳児期に起こった事故の聞き取り調査を延べ56回実施した。調査は健診の待ち時間を利用して, 調査員自身が書き込む方式で行った。

聞き取り調査を加えた最終回収数は2,615枚, うち有効回収数は2,510枚(回収率10.6%)で, 事故なし1,408枚を除く事故あり1,102枚(総事故件数1,578件)について可能な範囲で事故原因を分析した。

2) 1歳児期対象用はがき

平成23年10月末日の回収数はわずか457枚, うち有効回収数は444枚(回収率1.87%)と極めて少数であった。しかし聞き取り調査を実施する集団健診の場もなかったもので, 郵送されてきた444枚のうち, 事故なし154枚を除く事故あり290枚(総事故件数578件)について個々の事故原因について可能な範囲で分析した。

6. 倫理的配慮

事故調査はがきは無記名であり, 事故記録欄には保護シートを貼り投函してもらった。はがきには本調査の目的以外には利用しない。1歳半健診での聞き取り調査は保護者に「子どもの事故防止に活かすため協力して欲しい」と依頼し, 質問紙調査の了解を得た(全例了解が得られた)。

Ⅲ. 結 果

1. 事故ありと答えた人の男女別人数(表1)。
2. 事故発生時刻: 0歳児(図1), 1歳児(図2)。
3. 事故の場所: 屋内か屋外か(表2)。
4. 事故種類別総数(表3)。
5. 傷害部位(表4)。

表1 事故ありと答えた人の男女別人数 人(%)

	0歳児	1歳児
男	568 (52.8%)	160 (56.5%)
女	507 (47.2%)	123 (43.5%)
不明	27	7
合計	1,102	290

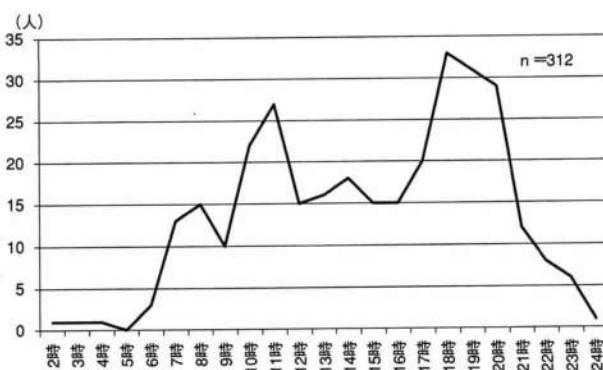


図1 事故発生時刻 0歳児

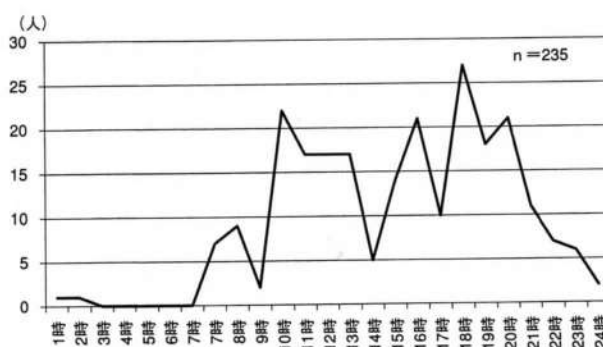


図2 事故発生時刻 1歳児

6. 障害が残った例(表5)。
7. 障害は残っていないが骨折, 脱臼例(表6)。
8. 事故種類別原因(表7)。

質問紙調査結果より共通にみられた乳幼児の事故原因は以下のものが多くみられた。

- i. 保護者が家庭内で乳幼児にとって傷害を負う危険性の認識が不足している。
- ii. 本来転落しやすいところに乳幼児を寝かす。
- iii. 保護者が有害な物を乳幼児の手の届く所や鍵のない所に置いている。
- iv. 乳幼児は危険予知能力を欠くため危ない行動をする。
- v. 乳幼児用品を正しく使っていない²⁾。

しかし実際には, 子どもの運動発達の段階よりは予想しえないような単純な保護者の不注意による事故が

表2 屋内か屋外か

件 (%)

月齢	0歳児				合計 (n=1,553)	1歳児 (n=578)
	0～3か月 (n=88)	4～7か月 (n=454)	8～11か月 (n=948)	月齢不明 (n=88)		
屋内	83 (96.5%)	430 (96.0%)	899 (96.0%)	80 (96.3%)	1,492 (96.1%)	442 (76.7%)
屋外	3 (3.5%)	18 (4.0%)	37 (4.0%)	3 (3.6%)	61 (3.9%)	134 (23.3%)
合計	86 (100.0%)	448 (100.0%)	936 (100.0%)	83 (100.0%)	1,553 (100.0%)	576 (100.0%)

(不明除く)

表3 事故種類別総数

件 (%)

事故種類	0歳児					1歳児	
	0～3か月	4～7か月	8～11か月	月齢不明	合計	事故種類	合計
転落	59 (67.0%)	333 (73.3%)	428 (45.1%)	50	870 (55.1%)	転落	210 (36.3%)
誤飲	2 (2.3%)	40 (8.8%)	131 (13.8%)	10	183 (11.6%)	転倒	140 (24.2%)
挟む	2 (2.3%)	20 (4.4%)	111 (11.7%)	6	139 (8.8%)	衝突	64 (11.1%)
熱傷	7 (8.0%)	10 (2.2%)	87 (9.2%)	2	106 (6.7%)	挟む	50 (8.7%)
転倒	1 (1.1%)	11 (2.4%)	83 (8.8%)	9	104 (6.6%)	熱傷	48 (8.3%)
衝突	10 (11.4%)	16 (3.5%)	41 (4.3%)	5	72 (4.6%)	溺水	20 (3.5%)
溺水	1 (1.1%)	5 (1.1%)	33 (3.5%)	0	39 (2.5%)	誤飲	16 (2.8%)
切傷	1 (1.1%)	4 (0.9%)	11 (1.2%)	3	19 (1.2%)	切傷	8 (1.4%)
窒息	2 (2.3%)	7 (1.5%)	5 (0.5%)	1	15 (1.0%)	突く	6 (1.0%)
刺傷	0	2 (0.4%)	5 (0.5%)	1	8 (0.5%)	窒息	3 (0.5%)
その他	3 (3.4%)	6 (1.3%)	13 (1.4%)	1	23 (1.5%)	その他	13 (2.2%)
総数	88 (100.0%)	454 (100.0%)	948 (100.0%)	88	1,578 (100.0%)	総計	578 (100.0%)

多くみられた。これらの事故の予防は実例を少しでも多く知り、各家庭環境に適した予防策を考えていく以外にないので、表8に質問紙調査結果よりわかる範囲で事故の詳細をまとめた。

IV. 考 察

「予防にまさる治療なし」という昔からの金言があるが、まさに乳幼児の不慮の事故に対する言葉はこれに尽きる。0歳児の事故は96%自宅で起こっていたので、比較的予防対策は立てやすいように考えられるが、それでも事故は一瞬の隙に起こっていた。

まず今回の質問紙調査で気になった注意点を箇条書きにまとめた。

1. 危険な場所へは近づけない、入れないようにする (子どもは高い・狭い所が好き)。
2. 危険な物は手の届かない所に置く (1歳になれば置いてある物を踏み台に、引き出しも上手に開く。スイッチも大好き)。
3. 生後6か月になると、手に持った物は何でも口に入れる (美味しいから食べるのではない。たまたま

表4 傷害部位

年齢	0 歳児		1 歳児	
傷害部位	件数	%	件数	%
頭部	471	29.8%	191	33.0%
上肢	234	14.8%	78	13.5%
誤飲	183	11.6%	16	2.8%
口・歯	50	3.2%	48	8.3%
溺水	39	2.5%	20	3.5%
下肢	27	1.7%	18	3.1%
眼・眼周囲	12	0.8%	18	3.1%
鼻	12	0.8%	7	1.2%
窒息	15	0.9%	3	0.5%
その他	66	4.2%	23	4.0%
記載なし	473	29.9%	156	27.0%
合計	1,582	100.0%	578	100.0%

手に持った・美しい色であるから口に入れる)。

4. 誤飲はタバコが最も多いが、最近よく使われるビニール袋、ペットボトルの外側・包装紙・シールなどが急増している。これらは窒息の原因になる。コイン電池が食道に貼りつくと電流が流れ潰瘍・穿孔を起こす。
5. 柵のないベッド (ソファはより危険) では、寝

表5 障害が残った例

年齢	件数	事故による瘢痕形成例（機能障害があるかは不明）
0歳児 9件	熱傷による瘢痕 7	・フライパンに触れ、腕をやけどし、傷痕が残った（10か月） ・熱い紅茶がかかって、首から胸にかけてやけど、赤く傷が残る（11か月） ・石油ストーブの上に手を置きやけど、痕が残った（8か月）
	切り傷による瘢痕 2	・滑って柱の角で額を切り、4針縫合、傷痕残る（月齢不明）
1歳児 6件	熱傷による瘢痕 2	・熱いお湯を兄がかけやけど、痕が残った（受傷部位不明）
	転倒打撲による瘢痕 2	・階段から転落、額から出血、深い傷で痕が残った
	挟み事故による瘢痕 1	・会館の重い扉に足が挟まり、挫減創、傷痕残る
	突いたことによる瘢痕 1	・遊歩道で走っていて、木の枝が目の下に刺さって、傷痕が残った

表6 骨折・脱臼例

年齢	件数	骨折・脱臼例
0歳児 12件	上肢の脱臼 6	・3歳児の兄が寝返りを手伝っていたら腕を脱臼（4か月）
	頭蓋骨骨折 2	・抱っこして床に落とし頭蓋骨骨折、脳は異常なし（5か月）
	鎖骨骨折 2	・リビングから50cm下の土間に転落、鎖骨骨折（10か月）
	手の骨折 1	・ソファから床に転落し手の骨折（6か月）
	肩脱臼 1	・父と車内で遊んでるうちに左肩脱臼（5か月）
1歳児 7件	下肢骨折 2	・2階窓から転落、足の骨折
	上肢脱臼 2	・父の手にぶら下がり、肘関節脱臼
	鎖骨骨折 2	・椅子から転倒し、鎖骨骨折
	眼窩壁骨折 1	・子どもを自転車に乗せ転倒、頭部打撲、眼窩壁骨折で手術、治療中

返りできない3か月未満児も足をバタバタして落ちて落ちることが多い。

6. 洗濯機やアイロン台に置いた赤ちゃんが落ちた（大人の認識不足）。
7. 抱っこしている子どもを落とす。立ったまま赤ちゃんの受け渡しはしない、殊に風呂は手がすべる。10歳未満の兄・姉が抱っこする時はソファに座り、立って歩くことは禁止。
8. 窓の側、ベランダに踏み台になるものを置かない（エアコンの室外機は特に注意）、網戸はもたれると簡単に外れる。
9. 危険な物を手の届く所に置かない（熱湯入りのポット、蚊取り線香、薬など）。

10. じゃがいも、パン、飴、こんにやくゼリー、スーパーボールなどは窒息の危険あり。窒息は他に電気コード、遊んでいた紐、おんぶ中に照明の紐などで起こる。

11. 1歳になると行動範囲が広がり屋外での事故が増する一屋外は危険が一杯。幼児を連れて外出する時は必ず保護者と手を繋いで歩く。

12. 乳幼児用品は正しく選んで、正しく使用する。

13. 幼児2人同乗基準適合自転車は法的に2人の幼児を乗せることが許可されている。しかし自転車から転落、駐輪中に自転車ごと倒れる・児のみが落ちるなど実際には事故が多く、乗車に際して基準はしっかり守る。法律では同乗可能な児は1～6歳未満で、

表7 事故種類別原因

	順位	0 歳児			1 歳児		
		事故原因	件数	%	事故原因	件数	%
転落	1	ベッド	378	43.4%	階段	74	35.2%
	2	ソファ	159	18.3%	椅子	40	19.1%
	3	椅子	109	12.5%	ベッド	30	14.3%
	4	階段	73	8.4%	住宅構造*	17	8.1%
	5	住宅構造*	60	6.9%	ソファ	14	6.7%
		その他	91	10.5%	その他	35	16.7%
		合計	870	100.0%	合計	210	100.0%
誤飲	1	タバコ	41	22.4%	タバコ	4	25.0%
	2	プラスチック材	24	13.1%	プラスチック材	3	18.8%
	3	紙	22	12.0%	おもちゃ	2	12.5%
	4	おもちゃ	12	6.6%	文房具	2	12.5%
	5	文房具	18	9.8%	その他	5	31.2%
		その他	66	36.1%	合計	16	100.0%
		合計	183	100.0%			
挟む	1	ドア	57	41.0%	ドア	28	56.0%
	2	引き出し	27	19.4%	引き出し	6	12.0%
	3	引き戸	24	17.3%	移動器具	3	6.0%
	4	椅子	6	4.3%	椅子	2	4.0%
	5	ビデオデッキ	4	2.9%	自動車ドア	2	4.0%
		その他	21	15.1%	その他	9	18.0%
		合計	139	100.0%	合計	50	100.0%
熱傷	1	電気・ガス製品	39	36.8%	電気・ガス製品	21	43.8%
	2	食品・飲み物	24	22.6%	暖房器具	6	12.5%
	3	暖房器具	21	19.8%	熱湯	5	10.4%
	4	調理器具	9	8.5%	食品・飲み物	7	14.6%
	5	冷却剤	4	3.8%	花火	2	4.2%
		その他	9	8.5%	その他	7	14.6%
		合計	106	100.0%	合計	48	100.0%
転倒	1	原因不明	36	34.6%	原因不明	34	24.3%
	2	風呂場	8	7.7%	住宅構造*	15	10.7%
	3	移動器具	7	6.7%	遊具	14	10.0%
	4	椅子	5	4.8%	風呂場	13	9.3%
	5	自転車	5	4.8%	自転車	13	9.3%
		その他	43	41.3%	その他	51	36.4%
		合計	104	100.0%	合計	140	100.0%
衝突	1	机・テーブル	21	29.2%	机・テーブル	23	35.9%
	2	住宅構造*	16	22.2%	住宅構造*	10	15.6%
	3	家具	13	18.1%	家具	6	9.4%
	4	人間	10	13.9%	椅子	5	7.8%
	5	椅子	3	4.2%	遊具	5	7.8%
		その他	9	12.5%	その他	15	23.4%
		合計	72	100.0%	合計	64	100.0%
溺水	1	浴槽内で転倒	11	28.2%	浴槽内で転倒	10	50.0%
	2	浴槽に転落	10	25.6%	詳細不明（浴槽で溺水）	4	20.0%
	3	目を離して（浴槽で溺水）	6	15.4%	目を離して（浴槽で溺水）	3	15.0%
	4	詳細不明（浴槽で溺水）	7	17.9%	浴槽に転落	2	10.0%
	5	その他	5	12.8%	トイレの便器	1	5.0%
		合計	39	100.0%	合計	20	100.0%
切傷	1	家庭用品	8	42.1%	家庭用品	3	37.5%
	2	紙	3	15.8%	その他	5	62.5%
	3	その他	8	42.1%	合計	8	100.0%
		合計	19	100.0%			
窒息	1	食品	8	50.0%	食品	2	66.7%
	2	電気のコード	3	18.8%	紐	1	33.3%
	3	掛物	4	25.0%	合計	3	100.0%
		その他	1	6.3%			
		合計	16	100.0%			
突く	1	家庭用品	4	50.0%	家庭用品	3	50.0%
	2	文房具	3	37.5%	文房具	2	33.3%
	3	自然物	1	12.5%	自然物	1	16.7%
		合計	8	100.0%	合計	6	100.0%
その他	1	引っ張って落とす	9	39.1%	肘内障	4	30.8%
	2	肘内障	7	30.4%	動物	3	23.1%
	3	異物を触れる	3	13.0%	上から物が落下	3	23.1%
	4	動物	2	8.7%	その他	3	23.1%
		その他	2	8.7%	合計	13	100.0%
		合計	23	100.0%			

*屋内の段差、玄関、柱、窓、など。

表8 事故記載例

原因	詳細	0歳児事故例	1歳児事故例
保護者の危険認識の不足	溺水	30cmのお湯をはった湯船に立たせ、母がシャンプー中に滑って水を飲んだ(10か月男)	4歳の姉とお風呂で遊び浴槽内に3秒沈んだ(1歳3か月男)
	突く	スプーンをくわえ転んで口の中を切った(9か月女)	歯ブラシを持って走り口腔内をケガ、口内炎になった(1歳11か月女)
	誤飲	1歳までに3回の煙草の誤飲(7か月, 10か月, 11か月男)	タバコを食べた。父親がポケットに入れて寝てしまい布団に残っていた(1歳11か月男)
	転落	大人のベッドに寝かせ寝返り転落し、鎖骨骨折(7か月男)	スーパーのベビーカート上に立ちあがり落下(1歳3か月男)
		30cmのソファから転落(生後7日目男)	双子が階段を上り、押し合い2人とも転落、母はキッチン(1歳9か月女)
	熱傷	ホットカーペットに寝かせ、低温熱傷(1か月女)	ホットプレートの熱線を触りやけど(1歳4か月男)
		ヘアアイロンを床に置き踏んで足の裏をやけど(11か月男)	電気ポットを倒し、左手に大やけど(1歳2か月男)
	大人の不注意	抱っこしていて落とし、頭蓋骨骨折(2か月男)	ミシンの上を触り、手の爪出血(1歳2か月)
		お風呂で受け渡し時、床に落とした(2か月女)	色鉛筆で右目を突いた、転倒でない(1歳7か月女)
		抱っこしていて、手がストーブに触れてやけど(生後2週間男)	机の上の熱いコーヒーを倒し、首から肩をやけどし病院へ(1歳2か月女)
	大人の都合で高い所に児を置いた	台所のシンクで入れるベビーバスから床へ転落(1か月女)	アイロン台1mから転落(1歳5か月女)
		お風呂上がりにテーブルから転落(生後4か月)	1m20cmの出窓から転落(1歳4か月)
		洗濯機から落下(7か月女)	1mの塀から転落(1歳11か月男)
製品によるもの	製品の安全性の問題	ベビーチェアのテーブル(ロック忘れ)がはずれ、転落たんこぶができ病院へ(6か月女) ²⁾	ヒーターガードを握り指に水疱(1歳8か月男)
		加湿器を倒し足をやけど(11か月女)	旅館の電球で手掌にやけどし、通院(1歳5か月男)
		加湿器のファンの部分に指を挟んだ(11か月男)	炊飯器の蒸気で左手に水疱(1歳2か月女)
		ホームベーカリーを触りやけど(11か月男)	
		クーハンの持ち手外れて転落(生後15日目) ²⁾	
		浮輪タイプで湯船に沈んだ。3回くらい(10か月男) ²⁾	
住宅事情・生活環境	危険箇所の存在	高い高いでカモイに頭をぶつけた(6か月男)	雨戸がはずれ外へ転落、背中を打った(1歳7か月女)
		網戸にもたれはずれてベランダに倒れ頭を打った(11か月男)	トイレの便器の中に体を入れていた(1歳11か月男)
		つかまり立ちし、階段2段目から網戸と一緒にベランダへ転落(7か月女)	網戸を落とし外に転落、1mの高さだったが額が青じんだ程度(1歳11か月女)
		洗い場と浴槽の段差の少ないお風呂でつかまり立ちし、浴槽に顔から落ち沈んだがすぐ引き上げた(11か月男)	病院の自動ドアで足の指はさみ(1歳11か月女)
	子どもの発達を予想できなかった	ソファに寝かせ、泣いて落ちていた(3か月男)	アイロンでやけど、高い所に置いてたのに引き出しを使って登っていた(1歳11か月男)
		柵をあげていたベビーベッドからのぞきこんで転落(8か月男)	ベッド横の窓に頭を突っ込み、眼の近くを切った(1歳女)
		寝返りをしないとと思っていたが、ベビーベッドから転落、病院でCT(3か月男)	窓側のソファに登りベランダに転落(1歳5か月)
		台所の引き出しをあけ、勝手に皮むき器を出し指を切った(10か月男)	化粧ポーチをいたずらし、カミソリで手を切り4針縫った(1歳6か月)
	その他	透明ビニールの切れ端を飲み、えずいて15分苦しむ嘔吐して改善した(11か月男)	転倒しコンセントの尖った部分が顔に刺さり出血した(1歳男)
		おんぶ中に照明の紐が首に巻きついた(5か月女)	紐で遊び自分の首を絞めていた(1歳9か月女)
屋外での事故	ベビーカー遊具	マンションの外階段をベビーカーごと落ち、顔口にケガ(7か月男) ²⁾	公園の滑り台を逆に登り、下唇を切って出血(1歳女)
	自転車	前かごに載せるタイプの自転車ごと転倒(11か月男)	自転車走行中、車と接触転倒、頭部打撲(1歳11か月男)
	車	チャイルドシートが人数分なくて、ブレーキ、転倒、口腔が切れた(10か月男)	チャイルドシートのベルトし忘れ、ブレーキで子どもがふっとんだ。ケガなし(1歳女)

ヘルメット、ベルトが義務付けられている。

14. 自動車に乗る時は、必ずチャイルドシートを正しく使う。
15. ヨチヨチ歩きの子は転倒しやすいので室内には家具類・電気コードなどを少なくし、家具の角にプロテクターをつける。
16. 物を持って階段の登り・降り、歯ブラシなどを口に入れて歩かない。
17. 父母の不注意による事故もある。抱っこや高い高い遊びをする時は赤ちゃんが周囲の物にぶつからないよう細心の注意をする。

これら原則の上に立って、各自の家庭に合った予防策を家族で考えるのがベスト。

各家庭に適合した予防法とは

家族構成: 殊に小学校低学年以下の兄・姉がいるか？母以外に育児を手伝ってくれる人がいるか？殊に入浴。

家の環境: 高層集合住宅か一軒家か、洋風か和風か？屋内に階段はあるか？畳かフローリングか？ベッド・椅子・テーブル使用？

これら家族構成、家庭環境に合わせて、さらに子どもの年齢（月齢）、運動・発達段階を加味し、あくまで子どもの視線に立ってわが子に最適の事故予防策を家族でよく相談する。

そのための有益な文献として、東京消防庁STOP！子どもの事故シリーズ³⁾、国民生活センター子どもの事故⁴⁾や日本小児科学会子どもの生活環境改善委員会⁵⁾などから出されている子どもの事故報告も良好な情報源になる。ならびにわれわれの施設であるセイフティハウスの見学なども有用である。

また事故予防の教育も大切である。叩いたり、蹴飛ばしたりは駄目、危険な行為をした時は、後でなく、その時に真剣な表情でよく言い聞かせる。言葉を話せない児も父母の表情や話しぶりから、父母の気持ちは正しく伝わる。

誤飲の現場を見付けた時の注意の仕方は難しい。大声を出すと、口を閉じ、口を無理に開かせようとすると飲み込んでしまう危険が大きい。われわれ自身も良い方法を模索中である。階段に興味を示し出した子ど

も（10か月頃）には階段は降りの方が危険で、後ろ向けにゆっくりと1段ずつ降りるように教える。繰り返して根気よく教えることが最も重要である。

V. 結 論

0歳児・1歳児の事故予防策を考えるため、平成19年4月より2年間に京都市で出生した全23,712人を対象に実施した質問紙調査を分析した。児の行動発達より当然発生すると考えられる原因も多くみられたが、「生後7日目の寝返りもうてない新生児がソファから転落した」事例もあった。実際に起こった事故を質問紙からわかる範囲で分析した。事故の実例を呈示して、保護者への日頃からの注意・気配りを喚起することが重要である。

謝 辞

今回の調査研究にあたり、ご協力いただいた保護者の皆様、京都市保健医療課、市内保健センター所長、職員の皆様、京都府医師会小児科医会の皆様のご協力に深く感謝する。

本論文の一部は第58～60回日本小児保健協会学術集会で発表した。

なお利益相反に関する開示事項はない。

文 献

- 1) 澤田 淳, 大矢紀昭, 加藤康代, 他. 京あんしん子ども館の活動—10年間の成果は？. 小児保健研究 2015; 74: 563-568.
- 2) 加藤康代, 高峯智恵, 中辻浩美, 他. 乳幼児用品でも事故はおきる—京都市での0歳児対象の事故調査業書きから集計—. 小児保健研究 2013; 72: 267-273.
- 3) 東京消防庁ホームページ. <安心, 安全><日常生活における事故情報> STOP子どもの事故シリーズ. www.tfd.metro.tokyo.jp
- 4) 独立行政法人国民生活センターくらしの危険ホームページ. <http://www.kokusen.go.jp/>
- 5) 公益社団法人日本小児科学会, 子どもの生活環境改善委員会. Injury Alert (傷害速報). <https://www.jpeds.or.jp/modules/injuryalert/>